



安田 結子

ラッセル・レイノルズ・アソシエイツ
マネージング・ディレクター

50の手習い

オペラ好きが高じて、海外出張のたびにニューヨークのメトロポリタン歌劇場やパリのオペラ座に通っていたものだ。日本とは異なり、安価なチケットで本場の演奏が聴けることは、望外の楽しみであり、出張のインセンティブになっていたことは間違いない。

そんなころ、当時マッキンゼーの本田桂子さんや、ゴールドマン・サックスの長谷川留美子さんといった方のオペラの会に参加させていただき、オペラは鑑賞するだけでなく、有名アリアの名曲を自分で歌えることに目覚めたのである。

カラオケも嫌い、楽譜もろくに読めない私の50の手習いはなかなか大変であった。音程が微妙に下がる、歌心に恵まれない、いわゆる音痴の生徒に辛抱強く付き合ってくれた先生には感謝で頭が下がる。

ボイストレーニングや音階練習もそこそこに、いきなり自分の好きな有名アリアを歌わせてくださるので、マリア・カラ

スやアンナ・ネトレプコのCDを何度も聞きながら励んだわけである。

家人には「お前の歌はオペラというより、民謡に聞こえる」「お前が歌うと、家の糠みそが腐る！」という批判を浴びながらも我関せず、で練習を重ねた。

写真は、発表会にてヴェルディの「運命の力」という大曲に挑戦したときのものである。当日は、聞いている家族や友人の方が緊張したと聞いたのは後日のことであるが、気分はオペラ歌手で、絶唱している。2011年3月8日のことである。この直後に東日本大震災が起こったことを今でも思い出す。

今回の新型コロナウイルス感染拡大の中、先行き不良の世界経済に危機感と不安が世界中に広がっている。このような環境下にあっても日本企業のレジリエンスや胆力を信じ、この難局を乗り越えることを心から信じてやまない。

